

令和4年度学校自己評価システムシート (県立春日部高等学校 定時制の課程)

目指す学校像	基礎学力を身に付け、人権尊重の精神を養い、一人ひとりの生徒が生き生きと学びあう学校
--------	---

重点目標	1 安心安全な環境の中で、基本的な生活習慣を身に付けさせ、規範意識と自己管理能力を育成する。 2 「わかる授業」を実践し、進路に応じた学力の向上を図る。 3 キャリア教育を実践し、進路希望を実現する。 4 学校・家庭・地域社会への情報発信を通じて、魅力ある学校づくりを推進する。
------	--

達成度	A	ほぼ達成(8割以上)
	B	概ね達成(6割以上)
	C	変化の兆し(4割以上)
	D	不十分(4割未満)

※学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

出席者	学校関係者 生徒 事務局(教職員)	名 名 名
-----	-------------------------	-------------

※ 重点目標は3つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目(年度達成目標を意味する。)は複数設定可。
 ※ 番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

学 校 自 己 評 価						
年 度 目 標				年 度 評 価 (月 日 現 在)		
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度
1	【現状】 社会人、不登校経験者、中途退学者、外国籍の生徒など多様な生徒が在籍しており、個々の生徒における課題は多様であるため、実態に応じた指導が必要である。 【課題】 基本的な生活習慣を身に付けさせ、ルールやマナーを尊重し、自他に配慮した生活が送れるように指導をしていく必要がある	○中途退学者数を減少させる。	○教職員間での個々の生徒の情報共有の内容を充実させる。 ○拠点校としてSSWの積極的活用及びSCとの連携 ○家庭との連携 ○中学校との連携	○中途退学率が前年度より減少したか。		
		○コロナ禍を踏まえ、出席状況を改善させる。	○登校時の声掛け指導 ○校内巡回指導 ○家庭との連携 ○出席状況の把握と対応	○出席率が改善したか		
2	【現状】 落ち着いた環境で授業にきちんと参加する生徒が大多数である。 【課題】 生徒の実態を踏まえ、「わかる授業」を展開し、個に応じて社会人として必要な基礎学力を定着させることが必要である。また、外国籍生徒への日本語の定着も必要である。	○授業理解度を向上させる。	○教員相互の授業見学等(年2回以上)による授業改善 ○ICTの活用 ○授業アンケートの実施	○「授業が理解できている」という回答率が向上したか。		
		○個々の生徒に応じた指導体制をより効果的なものとする。	○個に応じた指導(少人数、習熟度別、TTなど)の実施 ○外部指導者(多文化共生推進員、学習サポーター)の活用	○外部指導者活用等の効果が認められ、成績不振者が減少したか。		
3	【現状】 進路未決定で卒業を迎える生徒が少なからず存在する。 【課題】 高校4年間で適切かつ健全な勤労意欲や職業観を育成し、進路実現に向けた目的意識を培い、卒業後の進路に関する満足度を今まで以上に向上させることが必要である。また、特別な支援を必要とする生徒の就労支援に関して、支援体制を整備してゆく必要がある。	○個々の生徒に応じた指導を行い、進路決定に繋げる。	○進路講演会、ソーシャルスキル講演会等の実施 ○進路指導における総合的な探究の時間の活用 ○人間としての生き方在り方教育、人権教育の実施 ○特別支援教育巡回支援員等と連携しての個別の進路指導計画(就職面接指導・進学補習等)の充実	○進路決定率が向上したか ○特別な支援を必要とする生徒編支援体制を確立したか。		
4	【現状】 学校HPなどでのPRで「学び直し」の場としての定時制の意義が定着しつつある。 【課題】 本校の教育活動を積極的にPRするとともに、HP等で学校の最新情報提供を定期的・継続的に行ってゆく必要がある。	○中学校・学習支援センター・保護者・児童福祉・教育相談等の関係機関との連携を充実させる。	○個別の学校見学を重視する。 ○中学校訪問等により安易な受検にならないよう丁寧に説明する。 ○特に児童福祉・教育相談等の関係機関との連携に努める。 ○日常的なHP更新に努める	○個別の学校見学実施に伴い、本校定時制教育を理解した上で志願する割合が増えたか。		

学 校 関 係 者 評 価	
実施日	令和 年 月 日
学校関係者からの意見・要望・評価等	